

Home Concert 2000 (1)

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

<http://home.earthlink.net/~fweinstock/> で紹介されているワインストック教授のホームページはもうご覧になったことでしょうか、彼がMaestroを改良したCakewalk In ConcertをHome Concert 2000 という名前で楽譜表示機能まで備えたものに進化させたものが <http://www.timewarptech.com/> で紹介されていますのでこれを併用しながらHome Concert 2000の使い方を紹介します。

このプログラムは

- 1, 全てのレベルのピアノ練習者と指導者に適応します。
 - 2, 鍵盤練習にうんざりしている人にピッタリです。
 - 3, 専門のピアニストがコンチェルトの練習をするのに向いています。(生のオーケストラを雇うことなく);
 - 4, クラシックであろうとポップスであろうと教会音楽であろうとどんな音楽ジャンルでも練習できます。
- とホームページで紹介されていますが、まずシステム全体の構成を説明します。

システム構成

Macintosh の場合

- ・ 68020 ないしはそれ以上の PowerPc (200MHz 以上)
- ・ MacOS System 7.1 以上 (OSX には未対応)
- ・ モニタは最低でも 640 × 480 で 256 色以上
- ・ RAM は最低で 1.5MB
- ・ インターフェイスはシリアルポート (Modemか Printer) 又は USB ポートと OMS2.3.7 以上
- ・ MIDI キーボード
- ・ MIDI 音源

Windows の場合

- ・ 200MHz 以上のクロック速度を持つ 486, DX-2, 或いはグラフィックスの性能向上の為に Pentium 以上の CPU
 - ・ Windows 95, 98, 又は 2000 (XP 未対応)
 - ・ モニタは最低でも 640 × 480 で 256 色以上
- インターフェイスは MIDI アダプターの付いたサウンドカード或いは汎用 MIDI インターフェイス、又は汎用 MIDI ドライバが附属した MIDI 鍵盤のシリアル接続
- ・ MIDI キーボード
 - ・ MIDI 音源

ということになりますが、注意が必要なのは伴奏用の音源以外に、MIDI出力のある鍵盤が必要であるということです。ピアノプレーヤのように生ピアノがMIDI信号を出せるような場合はよいのですが、電子ピアノ等で音源系統が1種類

しかない場合は、その電子ピアノ以外にMIDI音源が必要になります。



左のようなイメージになりますが、この場合 Home Concert 2000 は MIDI ピアノからの信号を受け取ることしかできません。残念ながらヤマハのピアノプレーヤは MIDI 信号を受け取ってから発音するまでに 500mm 秒の遅れが出るからです。し

かも遅れて鳴るその音の MIDI 出力が又コンピュータに帰って来ますので、たった一つの音が無限ループを形成していまい、ピアノの鍵盤は電源を切るまで押されたままの状態になってしまいます。



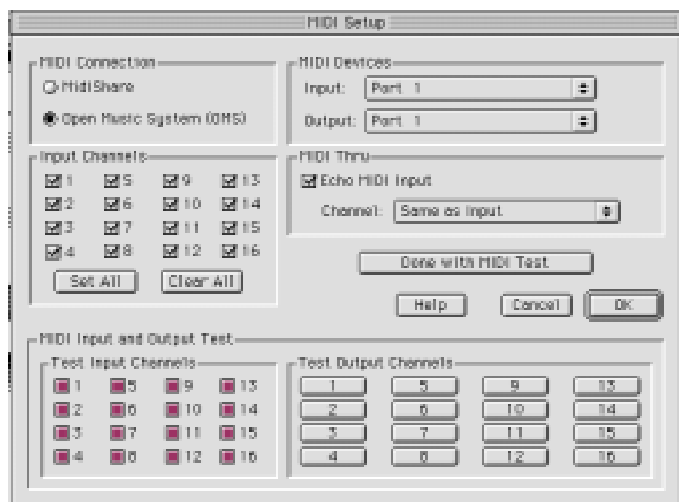
上の図は私の自宅でのセッティングです。ピアノプレーヤではなくヤマハのクラビノバ CVP-205 を使っています。この CVP-205 の良いところは電子ピアノ音源とアンサンブル用音源がそれぞれ独立しているため、外部音源が要らないということです。しかも、ピアノ音源はナチュラル音源で限りなく生ピアノに近いという利点があるまま生きています。コンピュータとの接続はシリアルケーブル (ホスト) 1

本で済むのも助かります。MacとWindowsではMIDIインターフェイスがやや異なりますがこのホストケーブルで繋ぐ方式は比較的誰にでも簡単に接続出来るので便利です。USB接続の場合は、現状ではコンピュータとUSBで直接接続出来るMIDIキーボードが少ないので、間にUSB MIDIの変換アダプタを必要としますし、このアダプタの設定が結構ややこしいので熟練者にお勧めです。

ソフトウェアの設定

まず、**Home Concert 2000**を入手しなければなりません。ソフトは<http://www.timewarptech.com/pages/howtobuy.html>のページから注文できますが、まもなく米国ヤマハのホームページ<http://www.yamahamusicsoft.com/>からダウンロードできるようになる予定ですが、それまでは<http://www.timewarptech.com/pages/order.html>から注文して下さい。100ドル未満ですので1万円と少々というところでしょうか。Mac版Windows版を間違えないこと。また、急ぐ場合はメールの添付書類で送ってもらいましょう。ちゃんとしたCD版(冊子もつく)の場合は別に送料が15\$かかります。

インストールはインストーラーが自動的にやってくれますの簡単ですが、Macの場合MidiShareというMIDIインターフェイスのドライバが組み込まれます。OMSをすでにインストールしてありセットアップが出来ている場合にはこのMidiShareは不要ですが、誰もが経験することですがOMSは一発でセットアップするのが難しいので、このMidiShareは前に紹介したHyperMIDIより使いやすくおすすめです。



ポップアップメニューの中のMIDI SETUPダイアログ(上図)で設定するのですが、左上のMidishareがOpenMusicSystemを選ぶラジオボタンでセットします。OMSの場合はその右のPORT名が正しくてもOMS優先デバイスやその他の設定がピッタリできていないと鳴らなかったり入力できなかったりすることがままありますが、Midishareはただ選ぶだけで設定できます。

以上の設定以外はMacもWindowsも同じです。音源付きMIDIキーボードの接続パネルの「T O H O S T」というところとホストコンピュータを繋いでやればよいのです。この時ホストコンピュータの種類でPCやMacの入力切り替えを忘れずに置いて下さい。何か鍵盤を鳴らすとTest Input Channelsの1が赤く光れば入力成功です。同様にTest Output Channelsの任意のボタンをクリックして音階が聞こえたら出力もバッチリです。

どうしても入力つまり鍵盤からの信号が受け付けられない(トラブルではこれが一番多い)場合はMIDI PORTを入力と出力で別のポートに設定して見て下さい。

さて、**Home Concert 2000**は三つの演奏モードと三つの画面(切り替え)を持っています。

Learn Modeと呼ぶ練習モードでは伴奏トラックは独奏トラック(例えば右手だけとか左手、或いは両手)のキーが正しく押されたときだけ演奏し、間違えた時は沈黙して正しいキーが押されるまで鳴りません。

逆に**Jam Mode**と呼ぶモードでは演奏者にお構いなく伴奏が進みます。ただ、MMO(Music Minus One)レコードと異なる点はテンポやフェルマータ等のスペシャル・マーカーを埋め込んでおけるので大づかみなジャムセッションは出来るわけです。

最後の**Perform Mode**と呼ぶモードこそが演奏者に伴奏が追従してくれるもので細かなスペシャル・マーカーの設定や、任意の場所からの演奏にも伴奏がジャンプして付いてくるなどのことができます。

また、画面は次のノータンションモードとよぶ楽譜表示画面(サイズは3種類)とピアノロール画面、全部のチャンネルの音量セットができるミキサー画面があります。

